

平成28年度三木市創生計画策定検証委員会の概要

日時：平成29年3月27日（月）

午後6時～午後8時

会場：三木市役所4階特別会議室

次の事項について、会議を行いました。

協議事項

1. 地方創生関係交付金の事業及びKPIについて
2. 三木市創生計画の改定について

概要

地方創生関係交付金を活用した事業のうち、実績値が確定した「先行型交付金」の事業及びKPIを中心に、効果検証を行った。また、その他の地方創生関係交付金の活用など国の新たな動きや、市として創生計画を進めるなかで生じた事業の方向性の変更などを踏まえた三木市創生計画の改定内容について説明した。

結論

先行型交付金を活用した事業については、本会による評価を踏まえた効果検証内容を国へ報告することとし、創生計画については事業の進捗にあわせて内容修正を行い、第2版として改訂する。

なお、他の創生交付金を活用した事業や創生計画に位置づけられている各事業については、次年度以降で、達成状況が把握できる段階になった際に改めて検証を進めていく。

主な意見

【先行型交付金の各事業に関する意見等】

(1) 定住促進助成について

定住や移住をダイレクトに推進する施策の一つとして重要な取組。今後は、実際に助成を活用された方の声を集めて紹介するなど、PRの仕方を工夫する必要がある。

(2) 「話せる英語教育」推進事業について

子どもがどの程度英語に親しむことができたか、という効果に焦点を置く

とともに、学んでいる子どもたちの声を広く紹介したり、姉妹都市を活用するなど、施策に磨きをかけてほしい。

(3) ハーブ産業推進事業について

ハーブの栽培、加工、販売までの6次産業化に、観光までも加えた視点を大切に、市内観光施設等でハーブを楽しめる環境づくりを進めるほか、ハーブを使った料理コンテスト等、PR方法にも工夫を期待する。

(4) マルシェによる商店街活性化事業

子どもの各種発表の機会や体験型イベントなど、親子で楽しめる企画を充実させてはどうか。イベント開催時だけでなく普段の商店街のにぎわいにつながるよう工夫を要する。また、地元のラジオ局やケーブルテレビの放送局など各種情報媒体と連携し、マルシェをPRしてはどうか。

(5) 住宅リフォーム促進事業について

移住定住や市内建設業者を中心とした経済活性化、雇用確保の点で重要な取組。他自治体でも同様の取組をしており、三木市独自のサービスやPR手法が盛り込めると、差別化が図れるのではないかと。

【その他の施策に対する意見等】

- ・インバウンドの取り込みについて、以前の「爆買い」といった消費行動より、「体験型」が好まれる傾向が強くなっている。金物製作体験や農業体験など、三木市でも企画できる内容があるのではないかと。
- ・インバウンドの取り込みは様々な事業でキーワードになる。国の取組でも、留学生を商店街に招き入れ、SNSを活用した事例がある。インバウンドを狙った手法も積極的に取り組んではどうかと。
- ・収入は都会ほどではなくても、田舎で暮らしたいという若者もいるので、そうした若者を農業等を通じて呼び込める体制を整備することも大切。
- ・お試し農園、農業体験など若者や働きたい方が就農しやすい環境づくりを整備してはどうかと。また、有害鳥獣対策の一環としてのジビエ料理を企画してはどうかと。
- ・三木市は山田錦で日本を代表する産地だが、実際に日本酒の瓶を手にとると、兵庫県産と記載があっても、三木市かどうか分からないケースも多く、三木市を十分にPRできていないと感じる。三木市産の酒米からはこんなお酒ができています、などホームページで紹介できないかと。
- ・三木市は良い施策を多数展開しており、効果も出ている。広く伝わるような方法や表現に工夫が必要。

- ・市内観光について。市内にホテルが充実してきたことから、家族向けとして、1泊2日、2泊3日で三木市を満喫できるようなモデルコースをつくり、PRしてはどうか。また、個人旅行客向けとして、市内の観光案内の看板等がきちんと整備されているかどうか、再度確認してほしい。
- ・いろいろな事業の成果がでてきており、住民としてうれしい。市民活動をしていると、子育て施策が充実していると実感するときがある。
- ・全国的なことだが、家庭の子育て力が落ちているのではと心配になる。子どもを保育園等に預けることが第一義になり、自分の子どもをどのように育てたいのか、といった大切な視点が薄れているように感じる。また、行政も市民のニーズに対応するため、待機児童を減らすための施策に力をいれて取り組んでいるが、親の子育てする力を育むような施策も一層充実させてほしい。
- ・KPIの設定については、やれば達成できる項目ではなく、「結果としてどのようになっていくのか」が分かる指標がよい。今後、見直しのなかでそういった点も考慮すべき。
- ・田植えや稲刈りなど、昔から三木市では体験授業などを実施している。こうした経験が三木市への愛着を高めることにつながり、ひいてはUターンなどの人口回帰にもつながると思う。
- ・定住移住PR動画はインパクトがあり、よいものができている。これまでの情報発信に加えて、フェイスブックなどをぜひ活用してほしい。